



それから毎日、昼休みになると、セレナは秘密基地に行き、ミスエンジェルとお喋りした。ミスエンジェルはいつも親切で面白い。セレナは徐々に打ち解け、心を開き、会話は自然になった。そして笑顔と自信が顔に現れ始めた。セレナが毎日一番楽しみにしていたのは昼休みだった。二人の話は尽きなかった。

あるとき、セレナはミスエンジェルにノラと友達になりたいという願望について話した。ミスエンジェルは言った。

「君が何も持っていなくても、私はそばにいるよ」

「ミスエンジェル、なぜ、私と話すの？私はブ